

【群馬】

ハッ場ダム建設再開 都内で抗議集会 反対派、全国から結集

2012年1月18日

ハッ場(やんば)ダム(長野原町)の建設再開に抗議する集会が都内であった十七日。参加者は県内を含め全国各地から集会に駆け付けた。集会に先立ったデモでは「民主党は公約を守れ」「ダムに使う金を復興に」と声を上げながら国土交通省や衆議院議員会館などの周辺を巡った。(伊藤弘喜)

ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会(東京)やハッ場あしたの会(前橋市)など九団体でつくる実行委員会の主催。約百五十人が日比谷公園から出発した。

五年ほど勤務した経験から長野原町を「第二の故郷」と呼ぶ前橋市の男性(69)は「町の自然を守れなければ次世代に顔向けできない」との思いに駆られ参加したという。

熊本市内から駆け付けた「川辺川を守る県民の会」代表の中島康さんは、ハッ場ダムと同じく計画が長期化した後に国が中止表明した川辺川ダム(熊本県)の反対運動に携わっている経験から「政府や市民団体は地元ともっと話し合ってもらいたい」と提案していた。

河川工学や水問題の専門家らがハッ場ダムの問題を報告した集会の参加者は約三百人に膨れ上がった。ハッ場あしたの会の渡辺洋子さん(前橋市)は「二週間余りの準備でこれだけ集まったのは国民の怒りの表れだ」と語気を強めた。

集会の最後には、ハッ場ダムを考える一都五県議会議員の会の角倉邦良代表(群馬県議)が、利根川水系の河川整備計画づくりがダム本体工事再開の条件であることから「計画を策定する有識者会議委員の少なくとも半分は、ダムに中立な方に入ってもらえるよう働き掛ける」と述べた。



ハッ場ダム建設再開に反対の声を上げるデモ隊＝都内で